

平成23年(2011年)3月24日

長野県立須坂病院薬剤科

薬剤師 鹿角昌平

薬剤師災害ボランティア活動報告書

このたび、日本病院薬剤師会・日本薬剤師会の薬剤師ボランティアとして、福島県いわき市で活動しました。その概要は下記のとおりです。

記

- 1 活動 薬剤師災害ボランティア(日本薬剤師会・日本病院薬剤師会)
- 2 期間 平成23年3月20日(日)～23日(水)
- 3 場所 福島県いわき市
- 4 拠点 いわき市立総合磐城共立病院
- 5 主な内容
 - ・いわき市医師会館臨時診療所付属調剤所での調剤(3/21)
 - ・富山からのJMATに加わり、避難所巡回診療の支援(3/22)
- 6 詳細

【3/16】

16:00 日本薬剤師会 HP で薬剤師ボランティア募集開始を知り、登録希望メール送信
→登録直後から水・食料・寝袋等を準備し、3/18には出発準備完了

【3/20】

9:00 日本病院薬剤師会からも名簿登録要請あり、承諾

14:00 日本病院薬剤師会より茨城県日立市に派遣依頼

15:00 派遣先が福島県いわき市に変更

16:00 常磐線不通、高速バス予約不可のため、自家用車で長野市出発

→インサイトのため無給油で長野福島間を往復可能。途中給油は困難が多い

21:00 いわき市立総合磐城共立病院到着

→病院は電気・水道等のライフラインが復旧し、携帯も通信可能。建物は軽度損傷。福島第一原発から40kmのため入院患者が大幅に減少し、複数病棟が無人状態。門前薬局が全て閉店となってしまった3/21以外は主として院外処方箋での対応。地震により機能停止した他の医療機関の受診者が多数来院しているため、入り口に臨時のお薬相談所を設置し、薬剤師が薬品鑑別及び採用薬との突合せ実施(写真5・6)

【3/21】

8:30 避難所巡回診療チームに加わるため共立病院にて待機

10:00 いわき市保健所臨時診療所付属調剤所に移動

→降雨の影響で避難所巡回活動が大幅縮小され、急遽開設された臨時診療所。周知不足により受診者は僅か。茨城の薬剤師 2 名が活動中。16 時までの診療

11:00 いわき市医師会館臨時診療所付属調剤所の応援に移動（写真 1・2）

→周知されており受診者多数。医師会館に臨時診療所、看護学校に付属調剤所を分離設置し、医師会館で受診した患者が処方箋を付属調剤所に持ち込む形態。両建物とも断水。医師会館は電気あるも看護学校は建物損傷により停電。茨城東京長野の薬剤師 6 名で活動

12:00 いわき市医師会館—いわき市保健所間で医薬品搬送を 2 回実施

21:00 臨時診療所及び付属調剤所活動終了。明日からは巡回診療となるため片付け

→受診者数は 9-21 時の 12 時間で 160 名程度。降圧薬の処方希望が特に多い。感冒様症状の患者も多数。処方医薬品数を集計。東京茨城の薬剤師はこれで活動終了のため、諸々の引継ぎを受ける

22:00 共立病院帰着

【3/22】

8:30 共立病院出発

9:00 医師会館にて、避難所巡回診療チーム合同ミーティング

9:30 富山からの JMAT に加わり、いわき市小名浜地区の 5 避難所巡回（写真 3・4）

→降圧薬・DM 薬等の定期服用薬の不足を訴える人が多く、医師が手書き処方箋を発行し、それを避難所の代表者が一括して最寄りの開いている調剤薬局に持ち込む形で対応。感冒様症状等の場合は、JMAT 携行薬より投薬

→薬剤師の役割は投薬された薬の説明や持参薬の鑑別、医師への DI、避難所の衛生状態の確認等。特に一包化された錠剤の鑑別は薬剤師の独壇場

→避難所により人口密度はまちまち。室内環境も底冷えのする体育館や、温かいが乾燥が著しい公民館など問題が多い。電気はほぼ全て通っていたが、大半が断水。手指消毒剤の設置数や配置場所、使用率は改善の余地大

16:00 医師会館帰着

18:00 医師会館にて、避難所巡回診療チーム合同ミーティング

→他チームの巡回した避難所では、感染症の流行が顕著なところも（12 名の受診者の全員に感冒様症状及び下痢症状など）。その他にも、在宅酸素中、失神発作を複数繰り返す、身体精神障害を有するなど、継続的なフォローを要する患者も多数

19:30 総合磐城共立病院帰着

【3/23】

8:30 朝の地震で常磐道不通。共立病院で軽作業を手伝いながら開通まで待機

10:00 常磐道開通。いわき市立総合磐城共立病院出発

→帰途の SAPA でも給油可能な場所は僅か

15:00 長野県立須坂病院帰着

8 備考

1)移動

- ・ガソリン 被災地はもちろん、途中の経路でもガソリンは不足
- ・道路状態 開通した高速道でも地震による段差多い。走行注意
- ・SAPA 道路が開通していても SAPA は閉鎖され、トイレも使用不可のところも

2)装備

- ・防寒 三月とはいえ、十分な防寒対策が必要
- ・名刺 他チームと協同する場合に名刺は有用。携帯番号も書いてあると便利
- ・ハサミ PTP シートを切るために必要。個人持ちで
- ・衛生 断水箇所も多いので、手指消毒剤のミニボトルを個人持ちで
- ・鑑別 医薬品鑑別ソフトと携帯端末は便利。書籍タイプの医薬品集も携行を
- ・標識 一目で薬剤師と分かる標識が必要。腕章やベストなど

3)通信

- ・携帯 概ね問題なく通信可能
- ・ネット UQ WiMAX は今回の活動範囲では不通

4)医薬品等

- ・経口保水塩 発熱患者のニーズが高い。現地では手に入り難いとの情報も
- ・ブドウ糖 避難所で低血糖発作をおこした患者も。医薬品ではないが重要
- ・後発品 支援医薬品中の後発品は、せめて一般名か先発品に似た名称の品目を
- ・消毒剤 避難所に手指消毒剤が設置されていても利用率が低い。啓発活動が必要



写真1 医師会館臨時診療所附属調剤所
・懐中電灯の明かりを頼りに医薬品を探す



写真2 同 投薬窓口
・探し出した医薬品を患者に投薬・説明



写真3 避難所
・ここは簡単な体操で健康維持を図っていた



写真4 避難所のトイレ
・断水のためプールの水をポンプで使用



写真5 共立病院おくすり相談所
・他院処方の鑑別や採用薬突合せ



写真6 共立病院玄関
・全ての来院者に手指消毒呼びかけ